

STEP2

基礎

助動詞の基本用法



1 can, could の用法

- ① **Can** you read this *kanji*? [能力・可能] この漢字が読めますか。 100
- ② That story **can't** be true. [可能性・推量] そんな話が本当のはずはない。 101
- ③ **Can** I turn off the air conditioner? [許可] 102
エアコンを切ってもいいですか。
- ④ **Can** you turn on the TV? [依頼] テレビをつけてもらえますか。 103

《1》能力・可能：「…できる」(①)

類例 1) 技能や知識などの〈能力〉を表す。

通例, **can** + 動作動詞。

Paul **can** play the piano well.

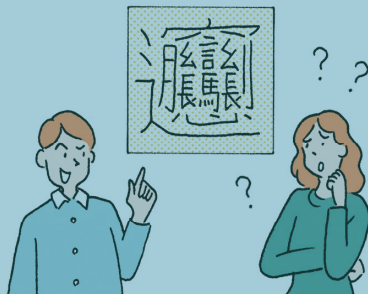
ポールはピアノを上手に弾けます。

He **can** speak four languages.

彼は4か国語を話すことができます。

I tried hard but **couldn't** pass the exam.

私は頑張ったが試験に合格できなかった。



2) 外部の状況などから〈可能〉であることを表す。通例, **can** + 動作動詞。

I **can** hear the dogs barking. 犬がワンワン吠えるのが聞こえる。

Can you help me with my homework? 宿題を手伝ってくれませんか。

I **can't** laugh at his joke. 私は彼の冗談には笑えない。

※最後の例では、「私は笑う能力はあるが、笑える状況にはない」ということ。

[否定形]: cannot, (《だくて》) can't [否定を意図したり、否定語の強調・分離が必要な際に can not が使われることもある]

注意しよう! will と be able to

will と can は水と油か



can は未来を表す will や完了形とともに使えない。助動詞は2つ続けて使えないことに注意。

× will can do

○ (《ややかたく》) will be able to do

John **managed to** swim one kilometer. ジョンはなんとか 1 キロを泳いだ。

John **succeeded in** swimming one kilometer.

ジョンは 1 キロを泳ぐことに成功した。

cf. John swam one kilometer. ジョンは 1 キロ泳いだ。

「実際できなかった」ことを表すときは、〈**could not do**〉〈**be not able to do**〉ともに使える。

John **could not** swim one kilometer.

John **was not able to** swim one kilometer. ジョンは 1 キロを泳げなかった。

【!】 can + 知覚動詞・認識動詞：知覚動詞（see, hear, smell, taste, feel など）や認識動詞（understand, remember, guess など）には、1 回限り実際にきたことに **could** を使うことができる。

I **could** understand what he was saying. 彼の言っていることが理解できた。

We **could** smell something burning. 何かが燃える臭いがした。

《2》可能性・推量 (2)

外部の状況から客観的・理論的に導かれる〈可能性・推量〉を表す。

通例、can + 状態動詞（特に be 動詞）。



【!】 自らの意思で行うのではない動作なら can + 動作動詞も可。

Anybody **can** make mistakes.

≡ Everybody sometimes makes mistakes.

誰でも間違いを犯す可能性がある。〔間違いを犯すことがある〕

※この文が正しいのは「間違いを犯そうと思って犯す人は普通、いない」から。

類例 ・否定文：可能性がない→「…のはずがない」〔確信のある否定的推量〕

It **can't** [**couldn't**] be Ken's fault. He's not even a member of the team.

あれが健のせいであるはずがないよ。彼はチームの一員でさえないんだから。

・疑問文：可能性があるのか疑問に思う→「（一体）…はありうるのか？」〔強い懷疑〕

Can [**Could**] it be that easy? そんなに簡単なことって、ありうるのだろうか。

Can [**Could**] it be possible that Julian left his home so early?

ジュリアンがそんなに早く家を出たなんて、本当なのでしょう。



could は現在または未来に関する可能性・推量の確信度が can より低いとき、あるいは控え目な気持ちを表すときに使われる。

過去の「時」を表しているわけではないことに注意。

I think your guess **could** be mistaken.

あなたの推論は間違っていると思います。

コミュニケーション couldn't を使った慣用表現

“How’s everything?” “**Couldn’t** be better.” / “**Couldn’t** be worse.”

「調子はどうだい」「最高さ」 / 「最悪さ」

「これ以上良くなる [悪くなる] ことはありえないだろう」からこの意味になる→ p.296。

類例として以下のようなものがある

I couldn’t agree more. 大賛成だ。

〔←「いくら賛成しようとしてもこれ以上賛成できないだろう」から〕

I couldn’t agree less. 絶対反対だ。

〔←「いくら反対しようとしてもこれ以上反対できないだろう」から〕

I couldn’t care less. 全然かまわないよ。

〔←「いくら気にしないようにしてもこれ以上気にしない状態にはならないだろう」から〕



【！】 could には、「…したいくらいだ」「…と言ってもいいほどだ」という強い感情を表して実際にはありえないようなことを言ったり、大げさに言ったりする用法がある。

I am starved. **I could** eat a horse. おなかぺこぺこ。馬1頭でも食べられそう。

ここが Point! could はどんな場面で使われるか？

形の上では can の過去形と呼ばれる could だが、意味の上で過去を表すのは能力の用法くらいである。could がメインで使われるのは、婉曲・丁寧表現、可能性、仮定法の用法であり、これらは過去を意味していない。

She could be at home now. 彼女はひょっとすると家にいるかもしれない。

これは、過去形を用いることで、現在のことから一步〈心理的距離〉を置いた形で述べていることを示すからである。助動詞の過去形で現在が表せるのは、言外に〈仮定法の条件〉が暗示されているためである。〔助動詞の過去形が仮定法過去で用いられることについては、p.341「英語の原理」参照〕

似たような用法は実は日本語にもみられる。日本語でも、相手に誘いの言葉をかける際、過去形（実際には完了形「た」）を用いて控え目な感じを出すことが可能である。

- (a) 「一緒に食事に行こうと思う」→現在形で断定的で、断る余地はない (cf. I wonder if ...)。
- (b) 「一緒に行こうと思ったんですが」→過去形（日本語では完了形）で、「今はそんなことはないんですが、過去に思っただけです」といったことを暗示して、現在との関係を断ち切り、断る余地を与える (cf. I wondered if...)。
- (c) 「一緒に行こうと思っていたんですが」→過去進行形で、断定を避ける形でまだ決断はしておらず、しかも今はそんなことはないことを暗示して現在との関係を断ち切り、断る余地を与え、より丁寧になる (cf. I was wondering if...)。

《3》許可：「…してもよい」(3)

〈能力・可能〉「…できる」から派生して、〈許可〉「…してもよい」を表すことがある。
通例、can + 動作動詞。

《3》過去の習慣的な動作の回顧：

「(よく) …したものだ」(11)

would + 動作動詞で、(《ややかたく・書》で昔を懐かしく回顧しながら過去の習慣的な動作を表すことがある。繰り返した動作について述べるため、often / sometimes など頻度を表す副詞を伴うことが多い。

ただし、過去のことについて述べているという文脈がないと使えない。

(過去形の) would には現在のことを表す用法もあり、現在のことを言っているのか、過去のことを言っているのかわかりにくくなるから。

would の基本

《1》現在の推量

《2》過去の意志

《3》習慣的動作の回顧

《4》丁寧な依頼



類例 We **would often** swim in the nearby river in our younger days.

私たちは若い頃によく近所の川で泳いだものだ。

John **would sometimes** play the guitar on weekends in his college days. ジョンは学生時代には、週末になると時折ギターを弾いていたものだ。

We **would often** play catch in this park when we were children.

子どもの頃には、この公園でよくキャッチボールをしたものだ。

※用例中の“when we were children.”のように、過去のことについて触れているとわかるような文脈をその前後で必ず示さなければいけない。

【!】 過去の習慣的な動作を表すときに used to が用いられることもある(pp.130-131)。

I **used to** go fishing in the pond. 私は池で魚釣りをしたものだ。

昔を懐かしく回顧する would と違って、「(今は違うが) 以前は(よく) …した」のように単に今と昔の違いに焦点がある。used to を使えば(前後の文脈で示されていなくても)必ず過去のことについて触れていることになる。そういう意味では〈過去の習慣〉を表したいなら、would でなく used to を使う方が無難。

《4》丁寧な依頼 (12)

would は丁寧な依頼を表すことがある。形の上では過去形だが、意味的には現在の「時」を表すので注意。仮定法 pp.350-352 を参照。

話しことばで
頻出するよ!



類例 **Would** you fill in the form, please? 空欄にご記入いただけませんか。

Would you kindly wash the dishes for me?

お皿を洗っていただけませんか。

It **would** be wonderful if you could take me to the party tonight.

今晚のパーティに連れて行っていただけるととても嬉しいのですが。

I would think Tom is an ideal captain for the team.

トムはチームにとって理想的なキャプテンだと思います。

I would suggest that we need to replace the goalkeeper for the

second half. 後半はゴールキーパーの交代を提案したいと思います。

練習問題 2：以下の英文を日本語に訳しなさい

→解答 p.122

- ① Will you help me with my science homework?
- ② The front door of my house won't open. It must be broken.
- ③ We would often go fishing in this lake.

3 may, might の用法

⑬ You **may** take this umbrella. [許可] この傘を持って行ってもいいですよ。 112

⑭ It **may** rain in the afternoon. [推量] 午後は雨になるかもしれない。 113

⑮ **May** you live happily ever after! [祈願] いつまでも末永くお幸せに。 114

《1》許可：「…してもよい」(⑬)

may は「…してもよい」という意味で、許可を表す場合がある。否定形の may not は「…してはいけない」という〈不許可〉の意味（強い禁止には must not）。

通例，may + 動作動詞。

類例 You **may** go home anytime you want. いつでも好きな時に帰っていいですよ。

You **may not** use your smartphone inside the classroom.

教室内でスマホを使ってはいけない。

might は「…してもよいのではないか」という控え目な〈提案〉を表すことができる。通例肯定文で用いて，had better のような威圧感・切迫感はない。

He just showed up. You **might** want to see him right away.

彼ならちょうど来たところです。すぐに彼にお会いになるのもいいでしょう。

“You may ...” と言うと、「私の権限であなたは…してよい」と上からの立場で許可していることになる。失礼な言い方になることもあり，現代英語では上下関係がはっきりしている場合にしか使われない。使うべき場面を考えて使用することが大切。

“May I ...?” で尋ねると相手の権限を問うことになるので，丁寧に〈許可〉を得ようとする言い方になる。

May I have your home address? ご自宅のご住所をお聞きしてもよろしいでしょうか。

コミュニケーション 〈許可〉の表現まとめ

相手の許可を求めるときに, may, can, could を使って次のように表現することができる。
may の場合, 立場が上の人に許可を求めることになり, can ではそのような上下関係はないので気楽に使う表現となる。以下は下に行けば行くほど丁寧な表現。

- Can I see your passport? 丁寧度 低
- Could I see your passport? ↓
- May I see your passport? 丁寧度 高



このほかにも, 以下のような丁寧表現もある。

Is it all right if I see your passport? パスポートを拝見してもよろしいでしょうか。

I was wondering if I could borrow your car. お車をお借りできないものなのでしょうか。

発信のヒント 〈May I ...?〉と聞かれたら？



目上の人から, “**May I use your pen?**” ときかれた場合, “Yes, you may.” / “No, you may not.” と応えると失礼。may を使うと「上から下への許可」というニュアンスを持ってしまうから。

このような状況で許可する場合は, “Yes, of course.” / “Yes, certainly.” / “Sure.” / “Go ahead.” などと応える。

断る場合は, “No, I’m afraid not.” / “I’m sorry. Actually, I’m using it.” など。
このように助動詞はどのような状況で使われる表現かを理解した上で使う。

《2》推量: 「…かもしれない」 (14)

- 1) may は「…かもしれない」という話し手の主観に基づく確信のない推量を表すことがある。
- 2) この意味では通常, 疑問文では使わない。
- 3) 原則, might は may よりさらに確信のないときに使う。
- 4) 通例, may + 状態動詞。進行形なら「…している状態だ」という意味になるので動作動詞も可。



類例 Sue **may** be able to become an actress. スーは女優になれるかもしれない。
Jun **might** be better than Shun as a starter for tomorrow's game.
明日の試合の先発は俊より淳の方がいいかもしれない。
It **might** be safer if we leave early. 早く出たほうが安全かもしれませんよ。

I **may not** be able to come to school before the class starts.

授業が始まるまでに登校できないかもしれない。

They **might** be looking for you at the station.

彼らは駅で君のことを探しているのかもしれない。

may が推量の意味で使われた場合、その可能性は通常、50% 程度と考えてよい。
したがって、may not の可能性もほぼ 50% となる。

You **may** be wrong or you **may not** be (wrong).

あなたは間違っているかもしれないし、間違っていないかもしれない。

う (▶ p.134 を参照)。might は may よりも婉曲的な表現なので、可能性が低く聞こえる。推量の度合いについて、may と might はさして変わらないと言う人もいる。

It **may** rain in Osaka. 大阪は雨が降るかもしれない。

It **might** rain in Osaka. ひょっとすると大阪は雨が降るかもしれない。

It **might have** rained in Osaka. 大阪は雨が降ったかもしれない。

発展 推量の may と can の違い

may : 〈実際の可能性〉

can : 〈理論的な可能性〉



Your friend John **may** betray you. 君の友人のジョンが君を裏切るかもしれない。

Your close friend **can** betray you.

君の親友が君を裏切ることもある [裏切る可能性もある]。

can の場合は「友人というのは親しくても裏切ることはある」という一般的な話をしているだけになるが、may を使って言われると「これは実際用心しないとイケないな」という感じで真剣味を帯びてくる。

したがって、この may には普通、強勢が置かれる。ただし、会話では〈理論的な可能性〉を表す can の代わりに may が使われることもあり、その場合は may に強勢はない。

5

助動詞

《3》祈願：「…でありますように」(15)

〈May + S + 動詞の原形〉の語順で、「…でありますように」という〈祈願〉を表す。

決まり文句として、may が省略されることもある。

類例 (May) God bless you! 神のご加護がありますように。

May both the bride and groom have long and happy lives.

新郎新婦共に末永くお幸せな日々を過ごされますように。

練習問題 3：以下の英文を日本語に訳しなさい



→解答 p.124

- ① May I use your umbrella?
- ② You may not speak loudly in the library.
- ③ You may go to the school nurse's office if you feel sick.

類例 You **must** get a lot of exercise to keep your figure.

スタイルを維持するには沢山運動をしなければならない。

You **must not** leave your bag unattended.

かばんを放置しておいてはいけない。

“**Must** I be at the station by ten?” “Yes, you **must**./No, you don’t **need** [have] to.”

「駅には10時までに行かなければいけませんか」「はい、そうしなければなりません。

/ いいえ、その必要はありません」

I **must** see the doctor this weekend.

今週末は医者に診てもらわなければならない。

発展 強い提案・希望を表す must

義務の must から派生して「ぜひ…すべきだ […したい]」という意味でも使われる。このような好意的な申し出をする場合は、have to よりも好まれる。

You **must** see that movie. その映画は必見です。

I **must** call him tomorrow. 明日彼に電話しなくちゃ。



類義 must と have to

1) have to も「…しなければならない」という〈義務〉を表す。しかし, must では「話し手が自らそう判断している」ことから, 一方 have to では「外的な状況に迫られた」ことから, 「…しなければならない」という判断に至ったことを含意する。

(a) We **must** work hard to win the game.

(b) We **have to** work hard to win the game.

(a) では, 話し手が試合に勝ちたいと思っているので, (自らの判断により) 一所懸命にがんばることを表している。

一方, (b) では, 相手との力量の違いなどにより, 「相当にがんばらないと勝てない」〈外的状況〉ので, 一所懸命にがんばることを表す。

従って次のような例では, must は使えず, have to を用いなければならない。

We **have to** turn right here. It's one-way. ここでは右折しなければいけない。

must は内的
have to は外的





- 3) 否定形 **<don't have to do>** は「…する必要はない」という意味。「…してはいけない」という意味にはならないことに注意。「…してはいけない」は, **must not do**.
You don't have to worry about money anymore.
 もうお金の心配はしなくていいからね。
You don't have to wash the dishes. 皿洗いはしなくていいよ。
cf. You must not catch that train. あの電車に乗ってはいけない。

原理 [don't have] + [to do] と分けられ「これから…することを持っていない」→「これから…する必要はない」と意味が派生したと考えればよい。
 これに対して, must not は [must] + [not do] と分けられ「…しないということをしなければならない」→「…してはいけない」(〈強い禁止〉) と考える。

ここが Point! 過去における〈義務〉や〈禁止〉

- 1) 「…しなければならなかった」と過去における義務や必要を表したい場合 **had to do** を使う。must を使うことはできない。ただし、〈時制の一致〉の場合は可。
We had to [× must] leave school after six.
 私たちは 6 時過ぎには下校しなくてはならなかった。
The teacher said we must leave the school after six.
 先生は私たちに 6 時過ぎには下校しなくてはならないと言った。
- 2) must には過去形がないので、「…してはいけなかった」という過去における〈禁止〉を表す場合には, was [were] not allowed [permitted] to do を使う。
We were not allowed to enter the building.
 我々はそのビルへの出入りを禁止されていた。



【!】 《話》では have to の代わりに〈have got to + 動詞の原形〉が頻繁に使われることがある。これは普通, 1 回きりのその場での義務を表す。

I've just got to watch today's TV drama.
 今日のテレビドラマはぜひ観なくっちゃ。
His guitar is just awesome. You've got to give it a listen.
 彼のギターは最高だよ。君も一度聴いてみてよ。



have got to は I've got to ... のような省略形で通例用いられる。形だけ見ると完了と見間違えそうだが, 現在のことを表していることに注意しよう。また, 日常会話のほか, 歌詞や映画・小説などの会話部分のような《くだけた》文体では, got to が gotta になったり, have が落ちたりして, **I gotta go now.** (行かなくちゃ) のように使われることも多い。

《2》確信度の高い推量：「…に違いない」。(17)

1) 通例, must + 状態動詞。

2) 進行形なら「…している状態だ」という意味になるので動作動詞も可。

3) must は「…に違いない」という話し手の主観に基づく確信のある推量を表す。

そのような推量ができるはっきりとした根拠がないと使えないことに注意（「…のはずだ」という意味の should なら根拠がなくても使える。p.127 を参照）。一般に will より高い確信度を表すとされるが、will の方が高いと考える人もいる。



類例 We have advanced to the finals. Our coach **must** be happy about it.

我がチームは決勝に進出した。コーチはさぞやご満悦だろう。

He got full marks in the math exam. He **must** be a genius.

彼は数学のテストが満点だったよ。間違いなく天才だね。

You **must** be an athlete. あなた、絶対スポーツやってるでしょ。

She **must** be studying hard for the mid-term exam.

彼女は中間テストに向けて一所懸命勉強しているに違いない。

There **must** be some reason why he's so upset.

彼があんなに動揺しているのはなにかわけがあるに違いない。

【!】 否定形の must not は、「…してはならない」（禁止）という意味になってしまう。

「…のはずがない」（否定の推量）と言いたいときには《話/くだけた書》**can't**, 《主に書》**cannot** を使う。

You **can't** [× must not] be tired. You've been sleeping all morning.

きみが疲れているはずなんてないよ。午前中ずっと寝ていたんだから。

注意しよう！ must は現在のことにに関する推量にしか使えない

must という助動詞は義務にしても推量にしても、非常に切迫した状況で使う語なので、現在の事柄に関する推量にしか使えない。過去形がないのはそういう理由による。

× He must come tomorrow.

○ I'm sure (that) he will come tomorrow. 彼はきっと明日やって来る。

未来の事柄に must を使うことはできないので、他の表現 (be sure that S will do や be sure to do/ be bound to do など) を使う。

発展 have to にも〈推量〉の用法がある



This **has to** be a fatal error. これは致命的な失敗であるに違いない。

推量の must と同様に通例, have to + 状態動詞。

ただし, have to の方が推量の度合いが強い。1 語の (法) 助動詞 (must, may, can など) は話し手の考えや思いを表す主観的な表現となるが, (法) 助動詞でない have to などの表現 (擬似法助動詞と呼ぶことがある) は, より客観的な表現で客観性や信用度が高くなるから。

推量 : have to > must

これとは逆に, 義務を表す have to と must では主観的表現である must の方が強い口調に聞こえる。外的な要因からではなくて, 「しなければならない」と発言している私が思っているという言い方だから。

義務 : have to < must



練習問題 4 : 以下の英文を日本語に訳しなさい



→解答 p.127

- ① I must go on a diet for the next medical check.
- ② You must be very tired because you ran more than 10 km yesterday.
- ③ You have to take the test again even if you don't want to.
[even if : たとえもし…でも]

類例 You **should** eat more vegetables to keep fit.

健康維持のためもっと野菜を食べた方がいい。

You **should not** waste your time playing computer games.

コンピュータゲームで時間の無駄遣いをするのはやめておきなさい。

Should I give you a call? 君に電話をした方がいいかな。

【！】 語感を和らげるために **must** の代わりに **should** が使われることもある。

E-mails **should** be sent to abc@def.com. メールは abc@def.com までお送りください。〔アドレスの abc@def.com は abc at def dot com と読む；@ は英語では × at mark ではなく at sign と呼ばれる〕

You **should** turn in your paper by Friday.

レポートは金曜までに提出してください。

《2》推量：「…のはずだ」(19)

should は、話し手の主観に基づく確信度のかなり高い推量を表す。**must** ほど確信度は高くないが、「当然…のはずだ」という意味になる。**must** と違って、その推量にははっきりとした根拠がなくても使うことができる。**must** では通常、その根拠がないと使わないが、**should** は根拠がなくても使える点が **must** との違い。したがって、予測していたことが起こらなかった場合にも使える。**should** はもともと「…すべきである」という意味が根底にあり、「うまくいけば…するはずである」の意なので、話し手が望ましいと考えている事柄に用いられる。通例 **should** に強勢が置かれる。



類例 It's already ten. He **should** be here at any minute.

もう 10 時だ。彼は今にも到着するだろう。

Students **should** be allowed to leave early if they have fever.

生徒は熱があったら早退を許されるはずだ。

練習問題 5：以下の英文を日本語に訳しなさい

→解答 p.128

- ① My son left school at five, so he **should** be at home by now.
- ② You **should** get light exercise a few days a week.

《2》提案・勧誘 (23)

「(一緒に) …しましょうか」と提案する。

肯定の返事: “Yes, let’s.” など。

否定の返事: “No, let’s not./Sorry, I can’t.” など。

〈**Let’s ...**〉は、相手に気安く提案する感じ。How about doing? (…するのはどう?) も同様の意味を表す。より丁寧には **Would you like to do ...?** などを用いてもよい。

〈**Shall we ...?**〉は《米》では《かたく》響く。《米》では代わりに **Should we ...?** の形が用いられることが多い。



類例 “**Shall we go out for a movie?**” “Yes, let’s.”

「映画を観に出かけましょうか」「ええ、そうしましょう」

“**What shall we do next weekend?**” “**How about going out to the beach?**” 「次の週末は何をやりましょうか」「ビーチに出かけてはどうですか」

発展 「強い…」を意味する **shall** (《かたく/やや古》)



・法律などの文書で使われ、格式ばった響きを伴い「強い義務」を表す。

Minors **shall** not be allowed to work overtime. 未成年者は残業を禁ず。

・「話者の強い意志」を表して、「…するつもりだ」「…することになろう」という意味を表す。

We **shall** beat them in the next game. 次の試合では連中をやっつけてやる。

Those traitors **shall** be executed. 裏切者は抹殺することになろう。

【!】 Let’s ... (…しましょう) のあとに付加疑問として ..., shall we? (…しましょうか) をつけることがある (▶ pp.395-396)。この形は《米》でも《かたく》響かない。

Let’s eat out tonight, **shall we?** 今晚は外で食べない?

8 〈助動詞 + have + 過去分詞〉の用法

- (1) 過去のことを推量して「…**だった**に違いない」「…**だった**かもしれない」などの意味を表す。
- (2) 過去に対する後悔や非難の気持ちを伴って「…**すべきだった** (がしなかった)」「…**してもよかった** (のにしなかった)」などの意味を表す。

1 過去の推量

- 26 I **may have taken** the wrong bus. バスを乗り間違えたかもしれない。 125
- 27 She **must have dropped** the key somewhere. 126
彼女は鍵をどこかで落としたに違いない。
- 28 He **can't have passed** the exam. 彼が、その試験に合格したはずがない。 127
- 29 They **should have already arrived** at Hakata. 128
彼らは、もう博多に到着しているはずだ。

《1》 **may [might] have + 過去分詞**：「…**した**かもしれない」(26)

- 1) must と同様に「推量」の意味で使われる。
- 2) 疑問文にはしないが、否定 (may not have + 過去分詞) はある。
- 3) may の代わりに might を使うと、推量の確信度が低いことを表したり、丁寧に響く。
might の確信度は may とあまり変わらないと考える人もいる。

類例 The train **may have been** running late. 列車は遅れているのかもしれない。
The train **might have been** running late. ひょっとすると列車は遅れているのかもしれない。〔推量の確信度が低い、またはより丁寧に響き〕
Paul **might not have seen** the accident.
ポールは事故を目撃していないのかもしれない。

Our conversation **may have been** monitored by the police.
私たちの通話は警察に盗聴されているかもしれない。

【！】 〈**could have + 過去分詞**〉が同じような状況で使われることもある。

may have done とほぼ意味は変わらないが、
could はそういう可能性について述べる言い方。

No answer. She **could have left** her phone at home.
応答なしだ。彼女は家に電話を置いてきたのかもしれない。



類義 must have +過去分詞と had to の違い



「…しなければならなかった」(過去の義務)という日本語に対応するのは, had to do. この意味で must have +過去分詞を使うことは普通ないので注意。

I **had to** attend the meeting. 私はその会議に出席しなければならなかった。

《3》 can't [cannot, couldn't] have +過去分詞: 「…したはずがない」 (28)

- 1) 「推量」の can は〈can't [cannot, couldn't] have +過去分詞〉のように否定の形で使われ, 「…した [だった] はずがない」という意味になる。cannot は(主に書)。
- 2) must の場合と同様, このように推量できる根拠がある場合に使う。これの反対は, 〈must have +過去分詞〉(…したに違いない)。

類例 Naoto has just left home. He **can't have arrived** at the station.
直人は家を出たところだ。彼が駅に着いているはずがない。

Yui **can't have finished** her homework without any help.

ユイは助けもなしで宿題を終えられたはずがない。

He **can't have been arrested** for nothing.

彼は何のやましいところもなく逮捕されたなどというはずがない。

練習問題 9: カッコ内を埋める適切な語句を選択しなさい

→解答 p.136

- ① I () have written my name on the test. I can't remember it clearly.
① can't ② may not
- ② I have lost my key. I () have dropped it on my way home.
① must ② can't

《4》 should [ought to] have +過去分詞: 「…したはずだ」 (29)

- 1) そのように推量できる根拠がある must have +過去分詞 (…したに違いない) ほど, 推量の度合いは高くない。予想とは異なる結果になっていることを表して「…だった / したはずだ (なのにそうになっていないとは驚きだ)」の意味。
- 2) (2) 「過去の後悔・非難」の用法もあり, 区別がまぎらわしいため発信用の表現としては避けた方が無難。

2 過去の後悔・非難

- 30** I **should have studied** more last night. 129
昨夜、もっと勉強しておくべきだった。
- 31** You **could have given** me a call. 電話の 1 本くらいできただろうに。 130
- 32** You **need not have gotten** up so early. 131
そんなに早起きする必要はなかったのに。

《1》 **should [ought to] have** + 過去分詞：「…すべきだった(のに)」(30)

過去において実行されなかったことに対する**後悔・非難**の気持ちを伴って、「…すべきだったのに(実際はしなかった)」を表す。仮定法の pp.343-344 を参照。否定文の場合は、「…すべきではなかったのに(してしまった)」という意味になる。

類例 You **should have come** to the party at Tom's place.

トムの家でのパーティに君も来ればよかったのに。

You **shouldn't have asked** her out before the exam.

君はテスト前に彼女をデートに誘うべきではなかったのに。

I **ought to have known** better when I was young.

若い頃にもっと物事の道理をわきまえておくべきだったのに。

I **should have read** his latest novel.

彼の最新作は読んでおくべきだったよ。

"Here's a present for you." "Oh, you **shouldn't have bothered**."

「ほら、プレゼントだよ」「まあ、気を遣ってくれなくてもよかったのに」



《2》 **could [might] have** + 過去分詞：「…できたらうに」(31)

過去において実行されなかったことに対する**後悔・非難**の気持ちを伴って、「…できたのに(実際はしなかった)」「…してくれてもよかったのに(実際はしなかった)」を表す。仮定法の pp.345-346 を参照。

類例 You **could have come** to see me last night.

昨晩は顔を出してくれてもよかったのに。

I **might have studied** harder when I was a student.

学生時代にもっと勉強しておけばよかったなあ。

Oh, you **could have** at least **let** me finish.

ちょっと、最後まで話くらいさせてくれてもよかったろうに。

《3》 **need not have** +過去分詞：「…する必要はなかった(のに)」(32)

過去に実行されたことに対する遺憾・非難の気持ちを伴って、「…する必要はなかったのに(実際はした)」を表す。(英)で好まれ、(米)では(かたく)響く。

類例 You **need not have gotten** mad at him. 彼に怒る必要なんてなかったのに。

I **need not have paid** the rent in advance.

家賃の前払いをする必要はなかったなあ。

You **need not have told** me like that. そんな風に言わなくてもよかったのに。

類義 need not have +過去分詞と didn't have to do の違い

I **didn't have to** attend the meeting. 私はその会議に出席する必要はなかった。

need not have +過去分詞は「…する必要はないがしてしまった」ことを表すのに対し、**didn't have to do** 「…する必要がなかった」の場合は実際に実行したかどうかはわからない (していない場合も使える)。

練習問題 10：以下の英文を日本語に訳しなさい

→解答 p.138

- ① I don't feel well. I shouldn't have eaten so much at lunchtime.
- ② He ought not to have said such a rude thing to her.
- ③ You need not have gone to school yesterday. I told you that our school was closed that day.